

突然の長兄の訃報に・・・

広島を經由して島根まで

3月21日いつもの朝のんびりして過す時間帯にスマホの着信音が鳴った。島根の義姉から落ち着いた声で長兄の訃報の連絡。最初は良く理解が出来ず、再度尋ねると今朝の早朝に息を引き取ったとのこと。約5年間もの入院生活が続いていたのでいつ逝ってもおかしくはなかったが、いざ亡くなってしまうと咄嗟に会話が続かない。動揺しながら山内の姉に電話を入れた。直前に島根から連絡があったようで涙声である。

昨年6月に義姉・貴代美さんから電話があり、病院へ行くのでLINEで顔が見れるとのこと。何年ぶりだろうとその時間まで楽しみに待った。LINEの着信音が鳴り、貴代美さんの声がして病室の兄に声を掛けている。「ほら貞光さんよ！」スマホに兄・豊弘さんの顔が見えている。少し痩せて見える。兄から私の顔が見えているのか良く解らないが、声を掛けても会話にならない。約5分ほどの短い時間で面会が終わったが、あれから9カ月が経っている。

姉の和子さんと連絡を取り、兄の顔だけでも見に行くことにして、島根行の準備をすることにした。出発は明日の早朝、和子さんの車で出かけることにした。島根の妙楽寺までは500km以上の距離があるので、中継地を広島にして一泊して行くことにしホテルの予約を取った。3人で行くので2部屋の予約が必要。しかも急な予約なので中々予約が取れない。利用し馴れている？東横インホテルの新幹線口1空室が見つかり予約を入れた。

翌朝4時半に起床。簡単な朝食を済ませ7時前には姉の家へ。武雄北方ICから高速に乗り一路広島へ向かった。途中、サービスエリアで何度も休みながら行くから大丈夫と良子さんに言い聞かせながら出発したものの、高速での運転は緊張の連続で疲れる。

最初の休憩で立ち寄った金立パーキングエリアでは、地域版の高速道路地図をもらいこれから先のパーキングを確かめようともらいはしたものの、結局は見らず仕舞いで地図を見ることなど余裕はなく、運転するだけで精一杯だった。関門トンネル手前のめかりパーキングで15分ほど休憩し関門海峡を越えた。

美東サービスエリアで休憩を取り、山口ジャンクションから山陽自動車道に入りひたすら広島を目指して走る。玖珂パーキングエリアで一休み。思っていたより早く広島に着いたがガス欠寸前でガソリン補給のため一般道へ。時間は正午前で目についたスローの看板を見つけ店内へ入ると大混雑状態。ここで昼食をあきらめ呉の大和ミュージアムを目指す。

やっとの思いで辿り着いたものの、まさかのリニューアルオープンに向けて休館中！の真っ只中であった。



なんと運の悪いこと。 ちなみにこの呉の大和ミュージアムは、有田史談会が発足したおりに、西山峰次氏と県外研修先に決めていた場所で、訪れる予定でもあっただけに残念だった。入口に置かれた戦艦陸奥の主砲とスクリューが展示されていて、後方には退役した潜水艦「あきしお」の実物が展示されていた。

近くのy o u m eタウンに入り、昼食の店を探したがここでも混雑していて諦める。持参のおにぎりで昼食は済ませ広島市 内にUターンし、広島原爆ドームの見物に向かう。

広島原爆はドーム 1996 年世界遺産登録を受けており、原爆ドームの見物は多くの外国人が訪れていて賑わっていた。

昭和 20 年 (1945) 8 月 6 日午前 8 時 15 分米軍の B29 爆撃機により人類史上初の原子爆弾が投下され、広島市街地の中心部の上空 600 メートルで爆発し、一瞬のうちに広島市街地の建物が倒壊し、多くの人々の生命がうばわれた。

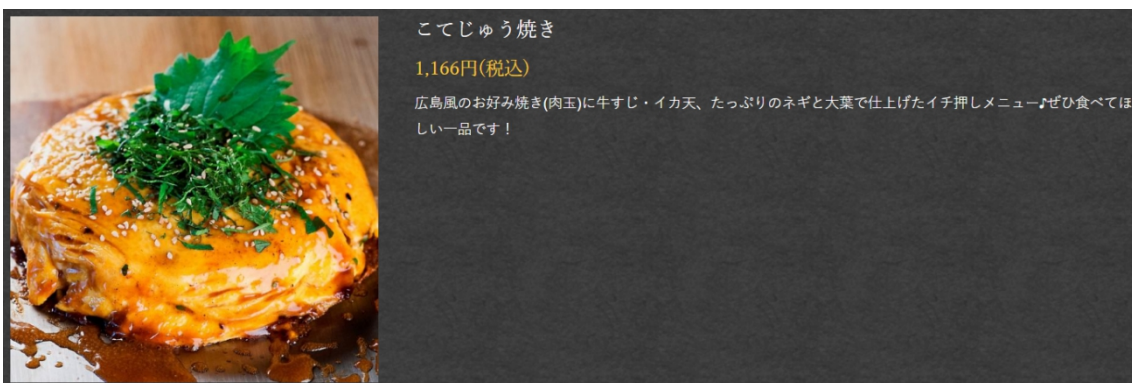
ここで原爆ドームについて

原爆ドームのもとの建物は、チェコ人の建築家ヤン・レツルの設計により、大正 4 年 (1915) 広島県物産陳列館として完成した。建物はれんが造りの 3 階建てで、正面中央部分は 5 階建ての階段室、その上に楕円形のドームが載せられていた。その後、広島県立商品陳列所、広島県産業奨励館と改称し、産業奨励館は爆心地から約 160 メートルの至近距離で被爆し、爆風と熱線を浴びて大破し、天井から火を吹いて全焼した。



原爆ドーム近くのレストランには広島焼きの店舗が目に入り列をなしていたので入るのをあきらめ、3時半すぎに東横インホテル広島駅新幹線口1のチェックインを済ませる。

ホテル近くの広島焼きのおすすめの店を聞き、早速「こてじゅう」という広島焼きの店に向かった。若いお兄さん二人が開店の準備に忙しく動いている。予約の方ですか？との問いかけに「いいえ！」と答え、店内の奥に案内され席に着く。お薦めの品を注文し待つこと約10分。大葉が乗ったドーム状の広島焼きが運ばれてきた。なんじゃこりゃ？と思いつつ用意されているへらで切り分け一口食べてみる。そばと白ネギがたっぷりの不思議な味である。飲み物は生ビール。¥5654 支払ったがこれが評判の代償かとやや不満。



ホテルに戻り、一日目の疲れを癒そうと入浴するが浴室は狭く寛ぐ状態ではなく早々に上がり就寝することに。

翌朝は6時半からの朝食に備え早めに起床。昨年までのバイキング朝食と異なり、具おにぎりスタイルの簡単メニューに替わっていて質素！

7時半前に島根県安来市に向けホテルを出発した。中国縦貫自動車道と中国自動車道を経由するルートで向かう。途中霧が深くなり用心しながらの走行で疲れたが、徐々に霧も和らいだ。

安来市広瀬町上山佐の妙楽寺までは約180kmあり約3時間以上はかかったが11時頃に到着した。



妙楽寺の情報サイトによると、妙楽寺は、中世に信仰家が現れて以降連綿と続いていると言われているが、当初は高木谷に庵寺が存在したのみであった。布部の田原屋（宇山家元祖）が篤志寄付により高木から湯谷に移し、本願開基として永代供養の祠堂料まで納めたとの伝承がある。正確な記録は残されていないが、妙楽寺が湯谷に移されたのは今から300年も昔のことだったと考えられる。

明和4（1767）年に火災で湯谷にあった堂舎が焼失したため、翌年9月26日に現在地に移して建立されたのが現寺域で、住職は秀峰和尚であった。

その後、文化年間（1804～1818）に呑海和尚が当山に入られ、2世として現在の妙楽寺の基礎をつくったと考えられる。

そして明和の火災から80年余り経た安政4（1857）年、7世秀光和尚によって現在の本堂が建立され、庫裏もこの頃に建てられたと考えられる。位牌堂は昭和4（1929）年、10世卍龍和尚の時に建立されたものである。平成20年（2008）、12世豊弘和尚代に本堂・位牌堂の屋根替改修・庫裏改築工事が行われ、現在に至る。

兄・豊弘と対面し安らかな顔に安堵しながらも、元気なうちにもう少し話が出来たらとの後悔が湧いた。

義姉家族と約1時間半あまりの会話をしながら昼食をごちそうになり、1時過ぎに妙楽寺をあとにした。出発直後に出雲大社参拝を思い立ち、いきなり方向転換して出雲大社を目指した。途中、大きな事故があった模様で反対方向からの車は大渋滞を起こしていたが、私たちは渋滞を横目に無難に走ることが出来た。



出雲大社では神楽殿近くの駐車場に車を留め、神楽殿の大注連縄前で記念写真を撮り、拝殿と御本殿を見物して土産物を購入した。

神楽殿の大注連縄は長さ約 13m、重さ 5.2 トンに及び、神楽殿前庭には高さ 47m の国旗掲揚塔が聳え立ち、揚げられる国旗は 75 畳 (タテ 8.7m ・ヨコ 13.6m) の大きさ。



出雲大社まで来て僅かな滞在時間だったが、広島までの帰路を思うと長居は無用と、日が暮れる前に広島へ向け帰路を急いだ。途中で、youme マートに立ち寄り夕食の食べ物とビールをGET！

広島に到着したものの、ホテル近くでカーナビとスマホのナビが誤作動を起こし困ったが無事にホテルに辿り着いた。和子さんの部屋で3人で夕食を摂り早めに就寝、明日の帰宅に備える。

3日目の朝は5時半起床！ 6時半に朝食を済ませると部屋に戻り帰宅の準備をしてチェックアウト。高速に入る前にガソリン補給をし、厳島神社に寄り道することに。 宮島口でフェリー乗り場近くの駐車場に入り、往復チケットを購入して乗船、約10分の乗船で厳島神社に到着。栈橋から厳島神社まで約1kmほど歩き、神社の回廊から海の中に立つ大鳥居を見ながら回遊した。

和子さんは疲れていたのか神社入り口で待機し、私たち夫婦だけで回り、和子さんと合流後に表参道商店街で土産物を買ってフェリー乗り場へ急いだ。

宮島口に戻りしばらく休憩して、いよいよ九州へ向け出発した。途中、佐波川サービスエリアで休憩、吉野家の牛丼を購入し店外のテーブルで昼食を済ませる。次の壇ノ浦パーキングで小休憩を取り九州に入る。

九州に入ってから福岡都市高速を唐津方面へ。伊万里を通りやっと帰宅。22日から24日までの3日間で約1200km走ったことになる。

帰宅翌日から風邪気味で夕方から発熱し、翌朝は蒲地医院を受診した。コロナ・インフルエンザは陰性で上気道炎の診断を受けた。さらに翌朝の洗顔時にギックリ腰を起こしてしまい動けなくなった。体調を戻すのに約1週間かかる羽目になった。

